



TITLE:

設立75周年の米国国立公文書館 (NARA) : その展示と最近の活動 をめぐって

AUTHOR(S):

古賀, 崇

CITATION:

古賀, 崇. 設立75周年の米国国立公文書館 (NARA) : その展示と最近の活動をめぐって. 2009

ISSUE DATE:

2009-12-19

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/89508>

RIGHT:

Copyright: Takashi Koga.



**設立75周年の
米国国立公文書館(NARA)**
—その展示と最近の活動を
めぐって—

第129回 記録管理学会例会
(大阪市・富士ゼロックス、2009年12月19日)
京都大学附属図書館 研究開発室
古賀 崇
Email: tkoga@kulib.kyoto-u.ac.jp
※ウェブ公開版

1

本日の内容

- 報告者の米国ワシントン調査にもとづき、
 - 国立公文書館(NARA)の**展示等**の現状をまとめる
 - NARA新長官に関する情報なども...
 - NARAが取り組む「**電子的記録の保存**」の取り組み、またそれをとりまく政策的課題を論じる
- 「電子情報(記録)の保存と管理」の具体的な事例だけでなく、
- 記録管理、アーカイブズに関する**活動のアピール策**の面でも参考になれば...

2

はじめに: 本発表の背景など

報告者の米国ワシントン調査

- 2009年9月27日(日)～10月2日(金)
- 聴き取り調査の訪問先
 - 米国国立公文書館・記録管理庁(NARA)
 - 米国政府印刷局(GPO)
 - 米国総合役務庁(GSA)
 - 米国議会図書館(LC)
 - メリーランド大学情報学カレッジ
 - アメリカ図書館協会ワシントン事務所
 - OpenTheGovernment.org(NPO)
- 展示の見学
 - 米国国立公文書館(NARAワシントン本館=Archives I)
 - スミソニアン国立アメリカ歴史博物館
 - ニュージアム(Newseum)

4

見学・調査の目的

- John W. Carlin元NARA長官が紹介した「**NARA本館 (Archives I) での新たな展示**」について確認する
 - 参照: Carlin, John W. NARAとともに: わが戦略計画と成果. 小谷允志・古賀崇訳. 入門・アーカイブズの世界: 記憶と記録を未来に. 記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編. 日外アソシエーツ, 2006, p. 65-80.
(初出: レコード・マネジメント No. 50, 2005)
- 米国連邦政府での「**政府情報の管理・保存・アクセス**」の実態について確認する
 - 特に**電子環境下**での、各機関の連携ないし競合関係について確認する

5

古賀とNARAとのかかわり

- 1998年10月 はじめてNARA (Archives I・II)を訪れる
 - 沖縄県公文書館・仲本和彦氏にもはじめて会う
- (2000年8月～2002年5月 米国シラキュース大学情報学大学院図書館学専攻修士課程在籍)
- 2002年1月～2月 NARA付属図書館・情報センター (ALIC)にてインターン
 - もっぱらArchives IIにて勤務、数日だけArchives Iに(展示は閉鎖中)

6

本発表のもととなるもの

- 古賀崇. 設立75周年の米国国立公文書館を訪れて: 展示の模様を中心に(学術エッセイ). レコード・マネジメント. No. 58, 投稿中.
- 古賀崇. 世界の図書館・政府情報は今: IFLA2009年ミラノ大会と米国ワシントン出張から. 図書系職員勉強会(仮称)第116回発表. 2009年10月16日, 京都大学附属図書館.
<http://kulibrarians.hp.infoseek.co.jp/116th/116th.htm>

7

故・牟田昌平氏を偲んで

- 国立公文書館、アジア歴史資料センターで国際的に活躍
- 議会図書館(LC)で研究→下記に反映
牟田昌平. “アメリカ憲政史のなかの「開かれた政府」と人民の「知る権利」.”
情報公開・プライバシーの比較法. 堀部政男編. 日本評論社, 1996, p. 29-49.



2007年7月2日、オーストラリア国立大学(キャンベラ)にて

8

米国国立公文書館本館 (Archives I)での展示

9

米国国立公文書館の歴史 概略

- 1913 タフト大統領、国立公文書館建築計画に関する法律に署名
- 1931.9 国立公文書館(現・Archives I)の建築始まる
- 1934.6.19 F. ルーズベルト大統領の法律署名により、国立公文書館設立(政府機関として)
- 1938.8 国立公文書館の建物竣工
- 1949.6 国立公文書館、総合役務庁(GSA)の傘下に
 - 名称はNational Archives and Records Services (NARS)
- 1985.4 NARSが総合役務庁より独立、現在のNARAの名称となる
- 1994.5 メリーランド州カレッジパークに国立公文書館新館(Archives II)開館
- 2009.6 国立公文書館設立75周年
年表: <http://www.archives.gov/about/history/milestones.html>

10

Archives Iの位置

- 「ペンシルバニア通り」沿いの、ホワイトハウスと連邦議会のほぼ中間に！
 - ペンシルバニア通り: 大統領が就任宣誓式の後、連邦議会からホワイトハウスに向けてパレードを行う

11

Archives I



コンスティテューション通り側



ペンシルバニア通り側

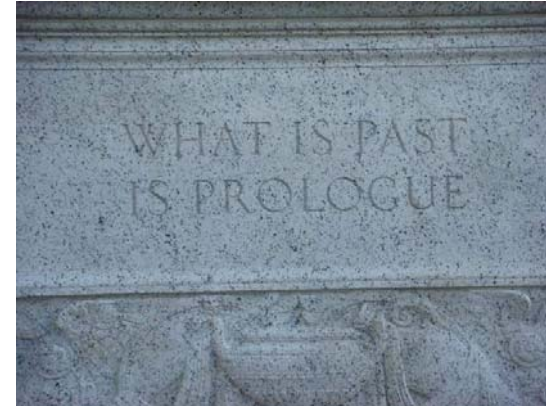
12

Archives I(続き):
ペンシルバニア通り側の像の台座に...



13

左: 過去は物語の始まりである



14

右: 過去を学べ



15

Archives Iの位置づけ

■ 「自由憲章」の展示の場

- 自由憲章: 独立宣言、合衆国憲法、権利章典(憲法第1～第10修正)
- 円形の大広間「ロタンダ」にて、1952年より
→ 2001年に展示は一時閉鎖、2003年9月にロタンダ新装オープン

■ より広範な展示の場

- 2004年より新設

■ 第1次世界大戦前の記録、家系調査(genealogy)のための記録、議会関係の記録を収蔵

- 家系調査のための利用が多い

16

ロタンダ



17

オバマ現大統領の「ロタンダ」での演説

- 2009年5月21日、テロ対策をめぐって
- 右写真:
Prologue
(NARA広報誌) 41(2),
2009の裏表紙より



18

Carlin氏のことば

- Archives Iでの展示の大改修をめぐって
- 「自由憲章を国立公文書館にある他の記録すべてと結びつけたかったし、公文書館を訪れる人々に、**自分たちの生活にとって記録がいかに重要であるか、そしてその記録は我々の施設およびオンラインで利用されるためにあるのだ、**ということを分かった上で、公文書館を後にしてほしかったのです。」

□ 『入門・アーカイブズの世界』p. 75.



NARAウェブサイトより
(<http://www.archives.gov/about/info/archivist-biography-john-carlin.html>)

19

改装後の展示:「国立公文書館の体験」 (The National Archives Experience)

- William G. McGowan Theater: 映像展示室 兼 講堂
- Lawrence F. O'Brien Gallery: 特別展示室
- The Public Vaults: 常設展示室
- Rotunda for the Charters of Freedom: ロタンダ
- Boeing Learning Center: 児童・生徒がNARAの記録について学ぶためのスペース
- The Archives Shop: 売店

<http://www.archives.gov/nae/>

20

常設展示の内容

- 建国時の記録
- 家系学(genealogy)関連の記録
 - 特に移民関連の記録
- 軍隊活動の記録
- 秘密扱い(classified)から解除(declassified)された記録
 - 「キューバ危機」時のケネディ大統領の電話記録(録音)など
- 特許記録(図面)
- NARAにおける記録の管理・保存に関する活動

21

NARAの記録管理面での業務のアピール

- 紙の記録に関連した展示
 - 汚損とその原因、修復法
- 電子記録に関連した展示
- マンガ(cartoon)によるNARAの役割の紹介
 - 記録管理・評価選別・保存のプロセス(記録のライフサイクルに基づく)をめぐって

22

特別展示:「Big!」

- 国立公文書館 設立75周年企画
- 米国の政治・社会に関する「とにかく大きいもの」の展示
 - モノ、考え、出来事...
- 2009年3月13日～2010年1月3日開催
- 関連:NARA設立75周年記念サイト
<http://www.archives.gov/75th/>

23

「Big!」のPR



コンスティテューション通り側
入口(再掲)



シャキール・オニール(NBA選手)のスニーカー展示のPR

24

「Big!」での展示内容

- 最初の合衆国憲法を記した13フィートの巻物
(今回、特別に全体を開いて展示)
- オニール選手のスニーカー(約40センチ)
 - G.W. ブッシュ前大統領に寄贈される
- 「真珠湾攻撃」後の対日宣戦布告に関する下院での賛否の集計用紙(後述)
- ベトナム戦争終結後、帰国していないと思われる米軍兵士の推定残留地を示した立体地図
 - 1992年に上院「捕虜・行方不明兵特別委員会」にて提示
- リンカーンが送った長大な電報 等々...

25

McGowan Theaterにて

- 上映ビデオ“National Archives: Democracy Starts Here”(約10分)
 - 家系調査の記録
 - 日系人強制収容の記録
 - 特許の記録
 - 「ナチの金塊問題(Nazi gold scandal)」の記録
 - ホロコースト犠牲者の金などの資産口座が、スイスの銀行にて約50年間凍結されていた
- ウェブで視聴可能(英文字幕つき)
 - <http://videocast.nih.gov/sla/NARA/dsh/index.html>

26

McGowan Theaterの他の企画 (2009年10月)

- 「スミス都へ行く(Mr. Smith Goes to Washington、1939年)」の上映70周年記念の上映会・講演会
- Clinton元大統領による在任中からの口述記録作業に携わったジャーナリストの講演会
 - Branch, Taylor. The Clinton Tapes: Wrestling History with the President. Simon & Schuster, 2009, 720p.
- Helen Thomas氏(元UPI通信記者)の講演会
- Truman元大統領が夫人より受領した書簡をめぐる、孫による講演会

27

売店

- Archive This!: The National Archives Archivist-in-Training Kit. Foundation for the National Archives, 2007, 40p. ISBN: 978-0-9758601-5-1. \$13.50.
- “Archivist”のTシャツ
- その他、本、DVD、ボードゲーム、各種みやげ物など

28

Archive This! 表紙



29

他の施設との展示と 比較・関連づけて

政治都市・公園都市・「博物館都
市」としてのワシントンの中で

30

NARA (Archives I) の展示と内容的 に(位置的にも)近い博物館

■ スミソニアン国立アメリカ歴史博物館

□ 2008年11月新装開館

<http://americanhistory.si.edu/>

■ ニュージアム (Newseum)

□ 2008年4月移転開館

<http://www.newseum.org/>

31

スミソニアン国立アメリカ歴史博物館



32

ニュージウム（壁面は合衆国憲法第1修正の条文）



33

ニュージウム(Newseum)とは

- 報道、ジャーナリズムに関する博物館
- 1997年にワシントン西隣のロスリン地区（バージニア州）に開館
- 2002年に一旦閉鎖し移転準備→2008年4月に移転開館
- ワシントン地区の博物館では珍しく有料
 - 報道機関による財団Freedom Forumが主な出資者

34

米国と戦争とのかかわり

- 英国との独立戦争
- 「西進」とNative Americanとの戦い
- 南北戦争
- 対外的膨張
- 第2次世界大戦／太平洋戦争
- 「冷戦」と「熱戦」（朝鮮戦争、ベトナム戦争）
- 「9.11」後の対イラク・アフガン戦争 etc...

→ これらにまつわる記録・資料の「重み」

35

真珠湾攻撃(Pearl Harbor)と、それに続く出来事

- 対日宣戦布告(前述)
- 日系人の強制収容
- 原爆投下
 - 「エノラ・ゲイ」は国立航空宇宙博物館別館(ダレス空港そば)に展示
- その後の核開発 ...

36

国立アメリカ歴史博物館では...

- 「自由の代償:戦争に臨むアメリカ人(The Price of Freedom: Americans at War)」の標題で大きく展示(4階)
- 原爆投下については「自由の代償」と「アメリカの生活における科学(Science in American Life、1階)」にて展示
 - 「科学」での展示のほうが原爆の扱いは大きい...

37

それぞれの立ち位置の違い

- スミソニアン:「国立」の施設
 - 国内の各方面に配慮しつつ、国の立場を提示
 - 参照:「エノラ・ゲイ」展示論争
- ニュージウム:「合衆国憲法第1修正の体現」を展示等の活動の基礎に
 - 言論の自由、報道の自由
 - 政府とは一線を画しての報道活動→現実は?
 - 民間博物館として「収益性」も意識

38

第10代NARA長官の 指名に関する公聴会

39

NARA長官の系譜

- 1995.5～2005.2 John W. Carlin第8代長官
 - 元カンザス州知事、退官後はカンザス州立大学客員教授
- 2005.2～2008.12 Allen Weinstein第9代長官
 - 歴史学者、退官後はメリーランド大学客員教授
- 2008.12～2009.11 Adrienne Thomas NARA長官代行
- 2009.7.28 オバマ大統領、[David S. Ferriero](#)氏を第10代NARA長官に指名 → 2009.11.6就任
 - 図書館界からのNARA長官就任は初

<http://www.archives.gov/about/history/archivists/>

40

Ferriero氏の経歴

- ノースイースタン大学(ボストン)修士課程、シモンズカレッジ(同)修士課程修了
- マサチューセッツ工科大学(MIT)図書館に31年間勤務
- 1996～2004 デューク大学図書館長(ノースカロライナ州)
- 2004.9～2009.11 ニューヨーク公共図書館 研究図書館部門長
 - 2007年より分館部門長を兼務



NARAウェブサイトより
(<http://www.archives.gov/about/archivist/archivist-biography-ferriero.html>)

41

公聴会の概要

- 2009年10月1日 15時頃より約50分間
- 管轄: 国土安全保障・政府問題委員会 連邦財務管理・政府情報・連邦サービス・情報セキュリティ小委員会
- 内容
 - Kay R. Hagan議員(ノースカロライナ州選出、民主党)によるFerriero氏紹介
 - Ferriero氏による宣誓
 - Thomas R. Carper議員(上記小委員会委員長、民主党)からFerriero氏への質疑と応答
- ウェブで同時配信→McGowan Theaterにて中継

42

Carper委員長からの質問事項

- 電子記録の管理・保存のあり方について
- 大統領図書館運営の効率化について
- 紙・電子の双方の記録の管理に関するNARAのリーダーシップについて
 - 連邦政府各機関に対するコンプライアンスの保障
- 過去の記録の開示・不開示に関するNARAのリーダーシップについて
 - 過度の不開示によって、国民への不利益と、開示手続きに際する税金の浪費をもたらさないように

43

関連URL等

- 公聴会の動画アーカイブ
 - http://hsgac.senate.gov/public/index.cfm?FuseAction=Hearings.Hearing&Hearing_ID=aea3649c-d29a-4ef9-91f5-bfea392457bf
- 公聴会の要約+Ferriero氏の「事前質問への回答書」へのリンク(米国歴史協会会報)
 - <http://www.historians.org/perspectives/issues/2009/091/0911nch1.cfm>
- Ruane, Michael E. Sharing a sense of history: Ferriero is first librarian in charge at National Archives. The Washington Post. 2009.12.7, Metro Section, p. B01.

44

NARAの最近の活動: 電子情報の管理・保存 をめぐって

45

Archives II

- 電子記録管理プログラムもここで運営



46

NARAと電子記録とのかかわり

- ERA(Electronic Records Archives)
- 「ウェブ記録(web records)」管理・保存の取り組み
 - ガイドラインの位置づけと、「公開ウェブコンテンツ」の「スナップショット収集」の中止をめぐって
 - スナップショット＝特定時点のウェブ・コンテンツ

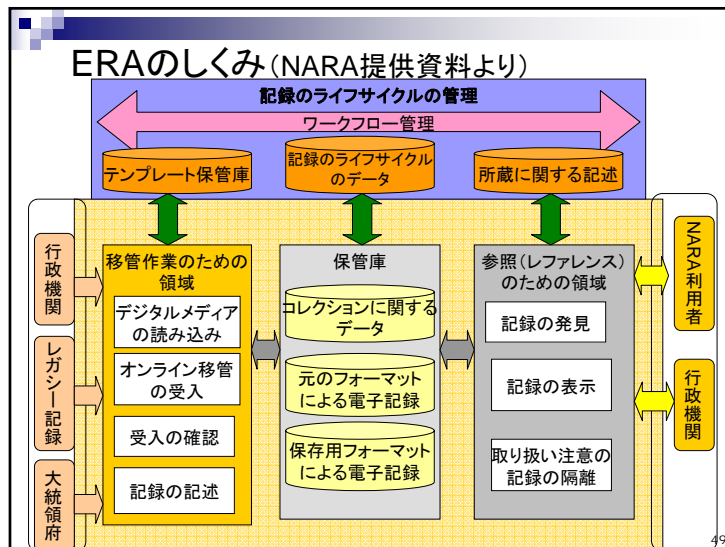
47

ERA(Electronic Records Archives)の現状

<http://www.archives.gov/era/>

- 電子的記録(公文書)を管理・保存・検索するためのシステム
- XMLをベースとし、ハードやソフトの変更に左右されない公文書作成・管理・保存を目指す
- ロッキード・マーティン社が開発を担当
- 未だ試験段階
 - 2008.6 4つの政府機関がpilotとして参加
 - 2009.1 G.W.ブッシュ期ホワイトハウスの公文書につき検索・保存システム構築に着手
 - 2009年秋(予定) pilot参加機関が25に
 - 2010.3(予定) 一般公開の検索システム運用開始
- 2011年までに全連邦機関のERA参加をめざす

48



「ウェブ記録管理」のガイドライン(2005年)

<http://www.archives.gov/records-mgmt/policy/managing-web-records-index.html>

- 「ウェブ記録」(web records)
 - 公開されたウェブ情報 & それを管理するための記録
- いかに「信頼性のある記録 (trustworthy records)」を確保するか
 - 「ウェブ記録」のもつ3つの要素＝「内容、文脈、構造」の保全が必要、とする
- 「リスク分析」に基づく管理・保存体制の構築を促す
 - 保存対象となる情報フォーマットの選定
 - レコード・スケジュールの設定 など

「ウェブ記録管理」のガイドライン(続き)

- ウェブ記録に含まれる可能性がある情報フォーマット
 - 固定されているHTMLページ
 - CGIやJavaなどにより変動するHTMLページ
 - ウェブサイトのデザインに関する情報
 - リンク先のリスト
 - サイト作成・管理に用いる商用ソフトウェアに関する情報
 - アクセスログ など

スナップショット収集をめぐって: 経過

- 2001年 NARAが連邦政府のウェブサイトに関する「スナップショット」の収集を開始
 - クリントン政権終了にあたり
 - 以後、数度にわたり「スナップショット」収集
- 2004年 「電子政府法」成立
 - 「ウェブサイトを保存するためのしくみの構築」を要請
- 2005年 NARAが「ウェブ記録管理」のガイドラインを制定(前述)
- 2008年 NARA、一部を除き「スナップショット」の収集の中止を発表

スナップショット収集をめぐる(続き)

- NARAが「スナップショット」収集を取りやめた理由
 - 「ウェブ記録管理」のガイドラインによりカバーされる
 - ただしホワイトハウスのサイト、連邦議会のサイトはガイドライン対象外ゆえ収集を継続
 - スナップショットの限界
 - 「深層ウェブ」などをカバーできない
 - 「特定の時点におけるスナップショットを何でもかんでも収集する」という方式は、「活動の証拠としての記録を保存する」というNARAの基本ルールにはそぐわない
 - NARA訪問時の担当スタッフのことは

53

GPO(政府印刷局)では...

- 「政府刊行物」の延長としての政府ウェブサイト(静態的なもの)の保存に取り組む
 - 「政府刊行物寄託図書館制度」を基盤に
 - 政府機関、大学図書館などと連携
- 新たなアクセスシステム:FDSys
 - <http://www.gpo.gov/fdsys/>
 - ロッキード・マーティン社とERA調達を争って敗れたハリス社(Harris Corp.)がGPOに「売り込む」!

54

電子政府に関する情報の管理・保存をめぐる

- 各機関の連携?棲み分け?競合?
- GPOは連邦政府刊行物を包括的に管理し保存することになっている
 - 提供の場は:図書館? GPO自身?
 - 電子コンテンツ保存についてGPO・LCなど連携の動きも
- NARAは「記録」(刊行物をすべて含むわけではない)の保存が主な任務
 - 保存の根拠:「政府機関の活動の証拠を保全」
 - 保存する記録の評価選別(appraisal)を行う
- 民間業者とのかかわり(調達)

55

まとめ

56

ワシントンの「地政学」と、 象徴としてのM・L・A(博物館・図書館・文書館)

- 「モール」近辺にM・L・Aが集中
- 参照
 - 赤木昭夫.ワシントンDC・ガイドブック:見える！アメリカ. 岩波書店, 2004, 219p.

57

展示をめぐって

- Carlin氏は「展示の大改修には、博物館の専門家と民間との協働が必要だった」と述べる
 - 後者: Foundation for the National Archives
<http://www.archives.gov/nae/support/>

58

展示をめぐって(続き)

- 文書館の収蔵資料だけでなく、業務をいかに広くアピールしていくか
 - 特定の利用者層や、年代に応じたアピールも必要
- 記録(文書)管理の側面のアピールは？
 - 電子化とも結びつけて

59

「民」のかかわり

- 記録管理・アーカイブズの実務を担う民間企業との協力は不可欠
 - 「入札を通じた競争」のもとで、各自のレベルアップも求められる
 - Small Businessにもチャンスが与えられるように
- 「展覧会・見本市」が日本でも活性化すれば...
- 参照: NEXT DOCUMENTソリューション2009 (於・東京、2009.7.15-17)
<http://www.noma.or.jp/nds/>
- 「公と私の線引き」をどうする？

60

関連1: 韓国IACE (International Archives Culture Exhibition) 2010

- 日程: 2010年6月1日(火)～6日(日)
- 会場: COEX(ソウル)、韓国国立公文書館ナラ記録館(城南)
- 主催: 韓国国立公文書館、韓国行政安全部
- 内容
 - 「国際的なアーカイブズの文化と遺産」に関する展示
 - ユネスコ「世界の記憶」登録の「記録遺産」など
 - 「国際的なアーカイブズ産業」に関する展示
 - 実演展示
 - 国際セミナー

<http://www.iace.or.kr/eng/main.html>

61

関連2: 情報セキュリティ関連のイベント

- サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム(毎年5月 or 6月頃、和歌山県田辺市・白浜町)
<http://www.sccs-jp.org/>
 - ネットワーク・セキュリティ・ワークショップ in 越後湯沢(毎年10月頃、新潟県湯沢町)
<http://www.anisec.jp/yuzawa/>
 - デジタル・フォレンジック・コミュニティ(毎年12月頃、東京)
 - デジタル・フォレンジック研究会<http://www.digitalforensic.jp/>
- 上記における産・学・官のコミュニティづくりに学びたい

62

最後に

- いかに記録管理・情報管理・アーカイブズの活動を、**的確に、かつ幅広くアピール**していくか？
 - 政策形成に向けて
 - 「記録・アーカイブズ文化」の醸成に向けて
- それは、活動の制度化、新技術への対処とともに、求められること
- 活発な「異業種・異領域交流」を！

63

ありがとうございました

- 今回の発表は以下による成果の一部です：
 - 平成21年度文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「図書館・文書館等における政府情報の保存・アクセスをめぐる比較制度的研究」(課題番号 21700272、研究代表者: 古賀崇)
- 今後の成果発表に関しては下記よりご覧下さい：
 - 京都大学附属図書館研究開発室サイト
<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/rdl/>

64